

登録コード	F3D52330	開講年度	2026			
授業科目	保全生態学				担当教員	平林 公男
英文授業名	Conservation Ecology				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・1時限	対象学生
講義室	繊維2 6 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 4 Fカリ・応用生物, 2 3 Fカリ・応用生物, 2 2 Fカリ					
	生物の詳細な構造・構成成分・機能についての基礎学力				河川生態系の基礎的な事項について、家族に説明できるようになる。	
	生物科学の応用に際して直面する課題を理解し、自立して問題解決の方法を探す能力				環境影響評価の基礎的な事項について、家族に説明できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース					
(4)授業の概要	毎回の授業前には、各自が教科書や配布資料の該当章の概要を良く読み込んで、内容を理解した上で講義に臨む。講義では内容のポイントと関連事項を解説するので、理解できないところ、発展的な内容などについては質問を受け、さらに理解を深める。講義終了後（または次回講義のはじめ）には、演習問題を解いて内容を確認する。 信州で生活していく上で、最も身近な生態系である河川生態系に注目し、生態系の仕組みや生物の戦略的な生活を理解し、人間活動と生態系の関係を考え、さらに、自然環境の保全、および利活用の技術や考え方に関する知見を得て、自分なりの考え方を形成する礎を築く。 担当教員が以下の実務経験を生かして、講義を行う。前長野県環境審議会会長、佐久市環境審議会会長、長野県内水面漁場管理委員会会長、国土交通省千曲川流域砂礫河原保全再生検討会座長、国土交通省信濃川水系流域委員会上流部会会長、山梨県環境技術審査会委員 ほか。					
(5)授業計画	100分授業（15回分）で、以下の予定で基本的には進める。					
	1回目 ガイダンスと河川生態系の特性 1章 2回目 河川と地形・水文 2章 3回目 流程に沿った河川景観の移り変わりと生物群集 4章(前半) 4回目 流程に沿った河川景観の移り変わりと生物群集 4章(後半) 5回目 河川の水質・現存量 5章 6回目 河川における生息場所の特徴 6章 7回目 河川生態系における連続性と物質循環 9章 8回目 1, 2, 4, 5, 6, 9章のまとめと中間試験 9日目 環境影響評価とは 10回目 環境影響評価の考え方：システム分析 11回目 環境影響評価の手続き（前半） 12回目 環境影響評価の手続き（後半） 13回目 環境保全措置について 14回目 生態系と新エネルギー 15回目 環境影響評価のまとめ、期末試験、アンケート回答					
(6)成績評価の方法	講義時に、予習してきた内容について質問する。予習してきた内容についてレポートにまとめて提出することもある。講義開始時に、前回講義の内容に関する演習問題を解く（30%）。原則として8回目に手書きのノート提出(課題を含む：10%)、15回目に手書きのノート提出(課題を含む：10%)を実施する。15回目にまとめの課題を提出する(50%)。これらを点数化し、総合的に評価する。一定の評価に到達しなかった学生については中間並びに期末に試験を実施し、再評価を行う。					
(7)成績評価の基準	教科書やeALPSで提供した資料内容と同レベルの問題が解け、説明ができれば「水準にある」, 教科書・eALPSで提供した資料内容の応用的な問題が解け、説明ができれば「やや上にある」, 教科書・eALPSで提供した資料内容以外の知識が必要で、応用的な問題が解ければ「かなり上にある」, 教科書・eALPSで提供した資料内容以外の知識が必要で、なおかつ、難しい応用的な問題が解ければ「卓越している」と評価する。					
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業前には、各自がテキストの該当章をしっかりと読み込んで内容を理解して、講義に臨む。講義で該当章のポイントを毎時間解説するので、それを聞いて、さらに理解を深める。講義終了後には、講義内容をまとめ、各項目について100字程度で説明できる様にする（復習を行う）。必要に応じ、講義前に、事前に調べることにについても指示をするので、それらについて調べ、講義のはじめまでにeAlps上に提出をする。					
(9)履修上の注意	教科書は必ず購入すること。 教科書・配付資料を用いて、予習・復習を必ず行う。 他学科受講希望者は講義開講時までに担当教員に必ず申し出ること。					
(10)質問、相談への対応	メールで質問をその都度、受け付ける。アドレスはkimio@shinshu-u.ac.jp メールのタイトルは、「保全生態学質問」とする。 研究室は応用生物学棟2階にあるので、昼休みに研究室まで来て、質問をしてもらっても構わない。					

(11)学生へのメッセージ	興味を持って、積極的に講義に参加できること。講義を欠席することは基本的にあり得ないが、公欠等やむをえない欠席の場合には、該当講義時間開始前までに、メールなどで必ず担当教員に申し出ること。
(12)その他	特になし。
【教科書】	河川生態学入門（平林・東城 編）共立出版（2600円）
【参考書】	随時紹介する。